

ご当地アンバサダー 久保田夏菜アナウンサー特別企画

瀬戸内海汽船 仁田一郎社長との海・船トーク！

シーパセオに学ぶ新たな船旅の魅力

～コロナ禍での提案～

- ◇ シーパセオは、最初から奇抜なデザインを狙っていたわけではなかった！
- ◇ 船旅の楽しみ方は様々。何も考えずに「ぼけーっとする」のがオススメ。
 - ◇ コロナ禍の今こそ、船での移動が適している。
 - ◇ 地元の人にこそ、地元の魅力を知ってもらいたい。
- ◇ 晴れだけが「いい天気」じゃない！どんな天気でも楽しめるのが船旅の魅力。



シーパセオ外観（写真提供：瀬戸内海汽船株式会社）

【プロフィール】

お相手：瀬戸内海汽船株式会社 仁田一郎社長

1961年5月26日生まれ。広島県広島市出身。愛媛大学法文学部法学科卒業。

1991年瀬戸内海汽船株式会社へ入社、取締役就任。1996年同社代表取締役社長に就任、現在に至る。

また、広島県旅客船協会会長、広島商工会議所運輸部会長、中国海事広報協会会長、海上保安協会広島地方本部長を務める。

聞き手：C to Sea プロジェクト中国地方ご当地アンバサダー 久保田夏菜アナウンサー

広島県広島市出身。フリーアナウンサー。「街頭TV 出沒！ひな壇団（RCC テレビ）」、「ひろしま満点ママ!!（TSS）」などの番組やCMに出演中。

2009年～テレビ愛媛、2013年-2016年中国放送に在籍。

IMCCD 国際地雷処理 地域復興支援の会 広島支部長（カンボジア）。

2019年1月23日よりC to Sea プロジェクト中国地方ご当地アンバサダーに就任。



久保田夏菜アナウンサー

仁田一郎社長

広島・呉～松山航路を結ぶクルーズフェリーとして2019年8月1日に就航した「シーパセオ」。続いて2020年8月1日に就航した同型の2番船「シーパセオ2」。

「瀬戸内海の移動を楽しむ、みんなの公園」をイメージした新しいフェリーであるシーパセオは、「グッドデザイン賞 BEST100」や「シップ・オブ・ザ・イヤー2019」など、様々な賞を受賞しています。

このたび、C to Sea プロジェクト中国地方ご当地アンバサダーに就任している久保田夏菜アナウンサー（以下、久保田さん）が実際に「シーパセオ2」に乗船して運航の様子を見学しました。この乗船体験は、C to Sea プロジェクトの一環として船のことを子どもたちに伝えるオリジナルの絵本ストーリーを制作し、それを久保田アナウンサーが読み聞かせる動画を配信するという企画を準備中であることから、船のことをより深く勉強させてもらうために実施したものです。

そして乗船体験の後、シーパセオを運航する瀬戸内海汽船株式会社の仁田一郎社長（以下、仁田さん）から「シーパセオに教わる新たな船旅の魅力」と題してお話を伺いました。

■シーパセオは、最初から奇抜なデザインを狙っていたわけではなかった！

久保田さん：就航当時から話題になっていてずっと乗りたかったシーパセオにようやく乗船することができました。すごいインパクトで、船じゃないような感じでした。

仁田さん：そうですね。「公園」をイメージして造っています。瀬戸内海自体が国立公園なのですが、「公園の中の公園」「動く公園」というイメージですね。



いよいよ乗船！

久保田さん：そういったコンセプトも、仁田社長が自ら考えられたのですか？

仁田さん：社員によるプロジェクトチームを立ち上げて、G Kデザイングループと一緒に取り組んでもらいました。

ただ船を造るのではなく、「お客様がこの航路に求めるものは何なのか」という視点で、航路に携わる一部の社員だけではなく、事務や受付などの職員も含めた社員全員でコンセプトから考えてもらうプロセスを踏んでもらいたいと考えました。

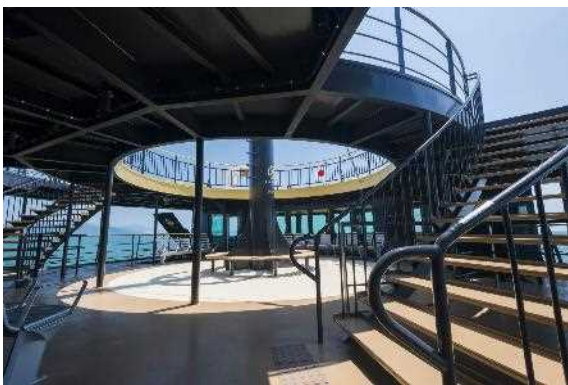


特別に許可をいただき、操舵室の中も見学させていただきました

久保田さん：社員の皆様が一丸となってアイデアを出し合われたのですね。

仁田さん：私からは「とにかく今までにない考え方で造るように」ということだけを最初に伝えて、あとはみんなに任せました。

私としては、移動手段としての機能面が洗練された、ある意味では無機質な船のイメージが頭の中にあったのですが、それをあえて言わずに社員に任せたら、「公園にしたい」という案が出てきてちょっとびっくりしました。「この航路にはいろいろな年齢や職業のお客様がいらっしゃる、そのそれぞれの方が過ごしやすい船にするために、いろんな場所を作ろう。」という発想が、それぞれの人が自分の居心地のいい場所を見つけて過ごすという、公園のような形にまとまることになりました。



シーパセオ「そよ風のパティオ」
(写真提供：瀬戸内海汽船株式会社)

久保田さん：本当に社員の皆様で創り上げられた船なのですね。そのぶん、船名の候補もたくさんあったのではないですか？

仁田さん：今までは「川」「山」「星」「風」「潮」のような漢字を付ける流れがあったのですが、せっかくなので「変えてみよう」ということになり、「シーパセオ＝海の散歩道」という名前にしました。瀬戸内海の標準船になってほしいと思い、あえて2隻それぞれの名前は付けずに「シーパセオ」「シーパセオ2」という形にしました。

久保田さん：名前にしても船の造りにしても「船と言えばこういうもの」というイメージのある中で、「今までにないもの」というテーマで造るのは、勇気が必要だったのではないのでしょうか？

仁田さん：「今までにないもの」と言っても、決して奇抜なものにしたいと思っていたわけではありませんでした。それぞれのお客様に「どういうふうに過ごしていただきたいか」というのを具体的に実現した船は今までにあまりなかったと思います。お客様の様々な過ごし方のことまで頭に入れて造るとというのが「今までにない」ことだと思っています。



シーパセオ建造の秘話と船旅の魅力を語る仁田社長

久保田さん：お客様のそれぞれのスタイルのことを考えた結果、今の形になったのですね。

仁田さん：お客様の反応を拝見しても、船内を廻っていただいて、それぞれ好きな場所を見つけて楽しんでいただいていると思います。

■ 船旅の楽しみ方は様々。何も考えずに「ぼけーっとする」のがオススメ。

久保田さん：シーパセオの船内にはいろんな場所があって、一ヶ所にずっと座っているのがもったいない、全部体験したくなりますね！

仁田さん：ぜひ、そうやって自分の居心地の良い、お気に入りの場所を見つけてほしいですね。

久保田さん：中でも、仁田社長のオススメの座席はどこですか？

仁田さん：私が一番好きなのは最後尾の「ひき波の HANARE（はなれ）」です。船尾から見る船のひき波は常に違う形をしていて、見ていて飽きないですね。

久保田さん：お客様には、船内でどのように過ごしていただきたいですか？

仁田さん：目的地に着くまで、何も考えずに「ぼけーっとする」ことも旅の楽しみの一つだと思います。目的地へ急ぐなら高速船もありますが、フェリーはゆっくりと心地よいスピードで航行します。「何も考えない時間」を、自分のリズムに合ったスピードで走る船の中で楽しんでほしいですね。

久保田さん：旅行先もちろんですが、フェリーに乗っている時間だけでも十分楽しめそうですね。売店も充実して、食事もある、いいですね。



シーパセオ「ひき波の HANARE（はなれ）」

（写真提供：瀬戸内海汽船株式会社）

仁田さん：私はうどんが大好きで、乗ったら必ず食べます。おむすびもおいしいですよ。

■ コロナ禍の今こそ、船での移動が適している。

久保田さん：船内は風も感じられる造りになっていますね。



シーパセオ「シャイン・デッキ（屋上展望公園）」

（写真提供：瀬戸内海汽船株式会社）

仁田さん：そうですね。オープンスペースも多く設けています。そこに円形のテーブルも設けていますが、そこに2人で座った時の距離感が今のコロナ禍においてはちょうどいいと思っています。私は「ヒミツ（非密）の乗り物」と呼んだりしています。

日本のコロナはクルーズ船から始まったので、コロナに関しては船に対してマイナスのイメージがついてしまいました。けれど、そうではない。船は最も密ではない乗り物だと思います。室内も広々として

いるし、外に出れば風に当たれます。大量輸送する乗り物の中でこのようなものは他にありません。コロナの時代に最も適した乗り物だと思います。

広島や宮島の花火大会が残念ながら中止になってしまいましたが、もし花火大会があったら、シーパセオの屋上から見る花火はまさに公園から見るようで最高だと思いますよ。

久保田さん：芝生もあるし、最高ですね！

仁田さん：それから、今は道後温泉の旅館が耐震構造の工事のため新築ラッシュで、新しい旅館ばかりです。それも個室の露天風呂がついているような部屋がたくさんできました。シーパセオで道後温泉へ行って、露天風呂付きの個室に宿泊するというのは、最高の「ヒミツ（非密）の」旅行形態ではないかなと思います。

久保田さん：「コロナが落ち着いたらこれをやろう」ではなく、今この状態でも楽しめるものを提案されているのですね。

仁田さん：そうですね。各種の補助金で、中国地方と四国地方という間柄である広島県と愛媛県も「隣県」という取り扱いで対象に含めていただけようになったのはありがたいですね。

■ 地元の人にこそ、地元の魅力を知ってもらいたい。

久保田さん：今はどうしても県内の方や国内の方が多いと思いますが、瀬戸内海を楽しんでもらうという意味では、海外の方にもアピールしていきたいという思いはありますか？

仁田さん：そうですね。まず地元の人が楽しまない、外の人にオススメすることは難しいと思います。そういう意味では、地元の人が地元の観光地や自然を満喫しようとする事自体はいい

ことだと思えます。地元の人が地元のものを褒めているのを聞いて外の人達が来てみたいと思うというのが本来の順番だと思えます。

東京から広島に来るために、あえて松山へ降りてからわざわざシーパセオに乗船して広島へ入られたという方もおられました。そうなるに船会社冥利に尽きますが、地元の人々の評価があれば、そういうことも起こりうるのだと思えます。

久保田さん：飛行機だけでなく、飛行機+船で、旅行自体が充実しますね。

仁田さん：船や海のいろんな知識をお客様に知っていただく努力もしていきたいと思っています。例えば灯台の話などは面白いと思えます。

■ 晴れだけが「いい天気」じゃない！どんな天気でも楽しめるのが船旅の魅力。

久保田さん：地元の人々に向けて伝えるとしたら、船旅の魅力とは何ですか？

仁田さん：特に瀬戸内海は、時間とともに、季節とともに、天気とともに、ものすごくいろんな表情があります。例えば雨や霧の時でも、私たちは「残念ながら・・・」とは言わないようにしています。例えば霧にむせぶ山影は墨絵のような幻想的な世界で、特に海外のお客様からの評価が高いです。そういった幻想的な世界もあれば、晴れた日の穏やかな光というものもあります。それから水の色も、普通は海の色は青っぽく想像しますが、瀬戸内海の海の色は緑色っぽく見えるんですよ。それも時間や景色によって変わってきます。そういうところも楽しんでほしいです。

我々は広島と愛媛の仲人だと思っています。広島の皆様にも愛媛のいいところを探し出して紹介したいといつも考えています。

久保田さん：広島と愛媛は近くて行きやすいですが、海を挟んでフェリーに乗って、というのがただで、旅の充実感がグッと増しますね。

仁田さん：瀬戸内の島々には本当にたくさんの素材がありますよ。

久保田さん：今、県内で周遊される方が増えていますよね。



船旅トークにすっかり引き込まれる久保田アナウンサー

仁田さん：今までも「移動手段として船に乗る」というのはありましたが、それを楽しむためにという雰囲気ではありませんでした。シーパセオに乗ってみたいけど、松山まで行く時間はないから、広島と呉の間だけ乗ってみよう、という乗り方をされる方も増えてきました。

久保田さん：今日は広島から呉までの区間で乗船させていただいたのですが、すっかり旅行したような気分になりました。本日はありがとうございました。（了）



シーパセオ外観（写真提供：瀬戸内海汽船株式会社）

※シーパセオ運航便は日毎に異なります。詳しくは瀬戸内海汽船ホームページをご確認ください。
<http://setonaikaikisen.co.jp/>